

不  
用な家財道具や身の回りの物を片づける「断捨離」や「生前整理」。死の前後のことを準備する終活の一分野として定着してきているものの、物の処分には抵抗感のある高齢者は多

い。そして親が亡くなった後、家の片づけ、遺品整理が子ども世代の大きな負担となっている。この問題をどう考えたいだろうか。  
(編集委員 福田淳一)

## 資源回収の利用、寄付も

背景は核家族化により、家族1人当たりの物の量が増えたことが大きい。さらに高齢者には物不足の時代の記憶が強く残り、「もったいない」という心理から、物を捨てるのに抵抗がある場合が多い。

こつした高齢者の家の中

## 専門業者に依頼も可能

ある物には、高齢者の人生の思い出が込められていることも多いからだ。

札幌市内の再生資源リサイクル業「ひがしリサイクルサービス」社長で、市環境保全アドバイザーの東さんは物を捨てる場合、環境保全や資源エネルギーの節約のため、リサイクルなど「生かして捨てる」ことを勧める。身近な回収システムを利用したり寄付したりする方法を提案し、資源回収で多くの物が再生利用できることを指摘する。

さらに、高齢者に対しては「資源としての物を家の中にためていると考え、処分する場合も生かして捨てる意識を持ってほしい。子ども世代の未来のために環境を守ると考えれば、心も豊かになるでしょう」と話している。

## 超高齢社会の絆

。生きるヒント

高齢者が物の整理に迫られるのは、自宅での生活が困難になり、狭い高齢者用住宅に移ることを余儀なく

された場合が多い。また、親が自宅で亡くなった時、道内外の遠くで暮らす子どもが親の家の片づけに時間が取れないこともある。

そんな時には民間資格の「遺品整理士」に頼むのも手だ。これはリサイクル会社の経営コンサルタントをしていた千歳市の木村栄治さんが、2011年に一般社団法人遺品整理士認定協会を立ち上げ、通信教育で認定を始めた資格。引越や運送、リサイクル、リフォーム、ハウスクリーニング業などに従事する人が取得する例が多い。

# 生前整理は親の思い生かして

### 「生かして捨てる」のアドバイス

- ① 町内会、マンションの管理組合などの資源回収に出す
- ② 地域のリサイクルセンターに持ち込む
- ③ 家族、友人、近所の人に使う
- ④ 福祉団体などのバザーに寄付する
- ⑤ リサイクルショップに売る

### 資源回収品目と再生の例

品目	再生する
新聞紙、チラシ、コピー用紙	新聞紙
雑誌、書籍、電話帳	段ボール、新聞紙
段ボール	段ボール
牛乳などの紙パック	ティッシュ、トイレトペーパー
アルミ缶	アルミ缶
アルミ製のやかん、鍋、アルミサッシなど	アルミ製品
鉄製の鍋、釜など	鉄骨・鉄筋
一升瓶、ビール瓶	洗って再利用
綿50%以上のシャツ、トレーナーなど	ウエス(工業用雑巾)
毛布	運送用梱包(こんぼう)材
和服	古着、古布

グラフィック・足立 則明

## 遺品整理の体験や実例紹介

主婦の友社は2013年、遺品整理の体験談を集めた「親の家を片づける」(1404円)を出版。子ども世代の苦勞を紹介する「04円」など5冊を刊行し



た。

遺品整理士認定協会の木村理事長は昨年3月、「遺品整理士という仕事」(平凡社新書、821円)を出版し、その役割や仕事の実例を紹介した本

例などを紹介した。このほか木村さんは「プロに学ぶ遺品整理のすべて」(WAVE出版、1620円)、「遺品整理士が教える『遺す技術』豊かに生きるための『備えと片づけ』」(メイツ出版、1620円)も出版している。